

<町史だより>



※まちの秘話⑦

各分野における調査過程の情報の一部をみなさまにお知らせします。

ひろなおうけつ ぼく

広永横穴墓群 ～それは、不思議な溝の発見から始まった！～

広永横穴墓群は、朝日町埋縄から四日市市広永町にかけて存在した、今から1,300年前（古墳時代の終わり頃）のお墓です。盛り土をして死者を葬る塚、いわゆる古墳ではなく、読んで字の如く、丘陵にトンネル状の横穴を掘った形をしています。

話は、平成9年に遡ります。第2名神高速道路（当時）の建設に伴う発掘調査として、三重県埋蔵文化財センターが、広永城跡の確認調査を行いました。広永城跡は、その大部分が、昭和37・38年ごろの宅地造成によって消滅していますが、東側の一部が竹林や雑木林となって残っていました。ちょうどその場所に、第2名神高速道路が南北方向に計画されたのです。

発掘調査は、丘陵上の平坦な部分や谷の部分に、城跡に関する遺構が存在するかどうかを確認するため、幅2mの細長い調査溝（トレンチ）を4本設定して行いました。その内の1本、丘陵の北側で緩やかに下がっていく場所で、東西方向の溝を発見しました。溝の幅は約60cm、深さは約90cm、断面の形がVの字をしており、溝の埋土からは須恵器の杯身片と土師器片が見つかりました。溝の南側が高まっており、出土した遺物から古墳の周溝の可能性を考えましたが、幅が狭い割に深く、断面の形も不思議です。周溝らしくない、どうも腑に落ちない気持ちでいました。

翌年、調査範囲を面的に広げることになり、その気持ちがようやく晴れました。実は、この溝が、横穴墓の羨道（玄室と呼ばれる死者を葬る場所へ至る通路）の一部だったのです。発掘調査の結果、最終的に6基の横穴墓を確認することができました。

三重県内には、約7,000基以上の古墳があるといわれていますが、横穴墓は、非常に数が少なく、四日市市で3遺跡・鈴鹿市・亀山市・津市でそれぞれ1遺跡と中北勢地域に限られています。しかも、四日市市の3遺跡は、死人谷横穴墓群（大字羽津）、金塚横穴墓群（山村町）、菟上遺跡（伊坂町）と、朝明川流域に集中する傾向にあります。当時、秦氏をはじめとした渡来系の氏族が、この周辺に存在したことが文献資料から窺えるようで、関連性が注目されています。

今回、町史編さん事業の考古編を作成するに当たり、過去に町内から採集された遺物を幾つか確認する機会に恵まれました。中には、広永横穴墓群と同じ時代に作られた遺物もあります。詳細な検討はこれからですが、朝日町内にも、現在分かっていない横穴墓群が存在している（していた）可能性も十分に考えられます。

また、四日市市で確認された横穴墓群は、いずれも谷地形を若干奥へ入ったような場所にあるという共通点がありそうです。盛り土のある古墳は、当時も現在も、ある程度視覚的に分かりますが、横穴墓はあまり目立たない場所で、現在もひっそりと眠っているのかもしれません。広永城跡の確認として行われた発掘調査で、思わぬ成果が得られました。

記：町史専門部委員・考古部会長 服部 芳人



（横穴1号墓）

※昔ばなし懇談会参加者大募集

町史編さん課では各大字地区（縄生、小向、柿、埋縄）の公民館において昔ばなし懇談会を開催しています。昔の事柄（習慣、風習、言い伝え、遊び事、お手伝い、機械化以前の農業など）を話せる方を募集しています。ぜひ町史編さん課までご連絡ください！